

【報告事項（1）】 令和7年度静岡型水素タウン事業 実施状況について

令和8年3月11日（水）
環境局 GX推進課 政策係

1. 第5期アクションプランの全体指標について
2. 市の具体的な取組について
(水素エネルギーの普及拡大)

1. 第5期アクションプランの全体指標について

※令和8年3月11日時点

対象		実績 (2024年度)	目標 (2026年度)	実績 (2025年度)	(増加数)
共通	水素を活用したまちづくりを必要と思う市民割合	95.2% (※1参考値)	97.0%	95.7% (※2参考値)	0.5%
	燃料電池(家庭・業務)	3,326台	5,420台	算出中	-
	モビリティの水素需要規模	約12t/年	18t/年	算出中	-
	FCバス	3台	-	3台	-
港湾部	清水みなとエリアにおける水素サプライチェーン構築 (港湾特有の多様なモビリティに向けた供給体制の整備)	自動車向け 供給の開始	多様なモビリティ への供給に向けた 協議の実施	多様なモビリティ への供給に向け た協議の検討	-
	水素ステーション設置数	1基	-	2基	1基
都市部	水素ステーションを核とした面的利用に向けた 検討	実証実験に向け た協議の実施	実証実験に向け た協議の実施	-	-
山間部	山間部における自立分散型エネルギー供給システムの 確立	実証研究 の実施	実証研究 の実施	実証研究 の実施	-

※1 令和6年度開催 デコ活ブースにて実施したアンケート結果 (回答数:551人)

※2 令和7年度開催 デコ活ブースにて実施したアンケート結果 (回答数:309人)

2. 市の具体的な取組 ① (各プロジェクト共通の取組「水素エネルギーの普及拡大」)

【本市取組】

- ①燃料電池商用車（FCバス）への運行支援
- ②静岡トヨタ自動車（株）と連携したFCV普及啓発
- ③先駆的なGX事業を実施するスタートアップ企業への支援

【指標】

項目	2024実績	2026目標	2030目標	CO2削減量参考値
水素を活用したまちづくりを必要と思う市民の割合	95.2%※	97.0%※	100%※	—
燃料電池（家庭・業務）	3,326台	5,420台	13,500台	家庭用燃料電池 約1.3t-CO2/年
モビリティの水素需要規模	約12t/年	18t/年	300t/年	FCバス 約3t-CO2/年 FCV 約60kg-CO2/年

【取組内容】

取組内容	2025年度	2026年度	2026目標 (アプト)
2 燃料電池を活用した機器の普及拡大 (1) イベントや防災訓練等での燃料電池自動車の活用 (2) 燃料電池自動車の試乗モニター制度の実施 (3) 燃料電池商用車等の導入支援 (4) 家庭用燃料電池の導入支援 (5) 産業用燃料電池の導入支援検討 (6) 純水素型燃料電池の活用検討 (7) 水素事業伴走型支援	イベント等での活用・普及啓発		イベント利用5件/年 モニター利用20件/年 FCバス等導入の検討 ZEHセミナー2回/年 水素事業伴走型支援 3件/年
	試乗モニター制度の運営		
	燃料電池商用車等に係る普及啓発・国補助金の上乗せ補助の検討		
	ZEHへの普及支援の実施を通じた家庭用燃料電池導入支援の実施		
	産業用燃料電池の技術革新状況の把握とモデル事業の検討		
	純水素型燃料電池の技術革新状況の把握と活用策検討		
	水素事業伴走型支援		

①燃料電池商用車（FCバス）への運行支援



株式会社ドリームプラザ
令和7年2月運行開始



しずてつジャストライン
令和5年11月運行開始

【燃料電池バス運行支援事業】（R7予算額：4,151千円）

内容：令和5～6年度に「燃料電池自動車導入事業費補助」で導入したFCバス3台について運行に係る経費を補助

補助額：路線バス：補助対象経費の1/2

路線バス以外：補助対象経費の2/3

2. 市の具体的な取組 ② (各プロジェクト共通の取組「水素エネルギーの普及拡大」)

取組内容	2025年度	2026年度	2026目標 (アクト)
2 燃料電池を活用した機器の普及拡大 (1) イベントや防災訓練等での燃料電池自動車の活用 (2) 燃料電池自動車の試乗モニター制度の実施 (3) 燃料電池自動車の導入支援 (4) 燃料電池バス等の導入支援 (5) 家庭用燃料電池の導入支援 (6) 産業用燃料電池の導入支援検討 (7) 純水素型燃料電池の活用検討 (8) 水素事業伴走型支援に向けた検討	イベント等での活用・普及啓発		イベント利用5件/年 モニター利用20件/年 FCV支援5台/年 FCバス支援3件 ZEH支援75件/年
	試乗モニター制度の運営		
	FCV購入に対する国補助金の上乗せ補助の実施		
	FCバス導入等に対する国補助金の上乗せ補助の実施		
	ZEHへの補助の実施を通じた家庭用燃料電池導入支援の実施		
	産業用燃料電池の技術革新状況の把握とモデル事業の検討		
	純水素型燃料電池の技術革新状況の把握と活用策検討		
	水素事業伴走型支援に向けた検討		

② FCV普及啓発

MIRAI無料試乗モニター制度



当課より貸出中の燃料電池自動車「MIRAI」

- ・ 静岡トヨタ自動車（株）から車両の無償貸与を受け、市民向け無料試乗モニター制度を実施
- ・ 令和7年度は、**11名が利用**（現時点、3月の**予定も含む**）
- ・ モニター利用以外の期間は、公用車利用をして啓発に利用
- ・ モニター制度については**令和7年度にて終了**

【モニター制度まとめ】

- ・ 平成30年9月～令和7年3月までの利用者：**延べ97名（予定も含む）**。令和4年度からは公用車としても活用
- ・ 各種イベントでの展示や電源として活用：**56,000人以上**
- ・ モニター利用者のアンケート結果では、FCVの購入は「**課題が解決したら購入したい**」という回答が最も多かった。購入への課題として**水素ステーションの数**を挙げた人が最も多く、次いで車体価格、水素ステーションの営業時間、水素の価格の順だった。
- ・ モニター試乗制度やイベント等での利用により市民への啓発は一定の効果が得られたが、水素供給体制への不安等もあり、FCVの購入に結びつけるのは難しかったといえる。

2. 市の具体的な取組 ③ (各プロジェクト共通の取組「水素エネルギーの普及拡大」)

取組内容	2025年度	2026年度	2026目標 (アウトプット)
3 技術革新などに伴う水素エネルギー導入可能性の検討 各種モビリティへの利用拡大も含めた需要創出 (1) 水素等先駆的なGX事業を実施するスタートアップ企業への支援 (2) 技術開発の動向等の意見交換、課題解決の検討	水素等先駆的なGX事業に対する支援の実施 静岡市水素エネルギー利活用促進協議会の運営		水素等先駆的なGX 事業支援 2件 協議会開催2回/年

③ 先駆的なGX事業を実施するスタートアップ企業への支援

【静岡市社会変革 (GX・BX推進事業)】

出資先：株式会社ハイドロ・アース・エナジー

提案内容：水素製造から消費までシステム全体を効率的に制御・最適化する、完全オリジナルの「水素吸蔵合金を利用したグリーン水素製造・循環システム」を小型分散型で導入促進し、水素循環共生圏の構築と温室効果ガス排出削減を実現

出資日：令和7年12月25日



【報告事項（2）】

令和8年度静岡市水素関連事業について

令和8年3月11日（水）
環境局 GX推進課 政策係

1-1. 令和8年度静岡市水素関連事業について

① **【新規】産業用燃料電池自動車導入事業費補助金【R8予算：5,000千円】**

※令和5年度で終了した「燃料電池自動車導入事業費補助」について
対象をFCバス及びFCトラックとして再開

◆令和8年度事業内容

【交付先】 産業用燃料電池自動車（小型トラック）の導入を行う者のうち、環境省補助金「脱炭素成長型経済構造移行推進対策費補助金（商用車の電動化促進事業）」の交付決定を受けたもの

【補助対象経費】 産業用燃料電池自動車（小型トラック）の導入に要する経費

【補助率】 補助対象経費と標準的燃費水準車両の導入価格との差額から国補助金を控除した額の1/2

【補助上限額】 5,000千円／台

1-2. 令和8年度静岡市水素関連事業について

② 【継続】燃料電池バス運行支援事業【R8予算：5,005千円】

内容：「燃料電池バス導入支援事業費補助金」の交付を受けて燃料電池バスを導入しエネルギーの水素転換を行う市内事業者の取組を支援する。

補助対象：燃料電池バス運行に伴う固有の費用

(年間メンテナンス費、燃料充填に係る人件費、運行費)

補助額：対象経費の

{	緑ナンバーの場合	1/2
	白ナンバーの場合	2/3



株式会社ドリームプラザ
令和7年2月運行開始

③ 【継続】グリーントランスフォーメーション推進事業【R8予算：60,000千円】

内容：環境に資するイノベーションを推進する事業者に対する出資金

出資上限額 30,000千円×2社
出資比率25%未満

④ 【随時検討】水素供給設備整備支援事業、新型FCバス導入に向けた支援事業



静岡清水水素ステーション
令和7年3月竣工